高槻市文化財調査概要34

嶋上遺跡群31

上群

2007

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群 31

はしがき

平成18年度も、市内各所におきまして個人住宅の建設や史跡整備等に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施してきました。

嶋上郡衙跡や梶原寺等におきましては個人住宅の建設に関わる小規模な調査を実施しています。嶋上郡衙跡の調査では郡衙跡周辺部の状況を、梶原寺跡の調査では寺域西辺部の状況をしることができるなど、各遺跡の具体的な内容や広がりを知るうえで基礎的な資料が蓄積されています。

史跡今城塚古墳では、史跡整備工事が三年目を迎え、市民の歴史学習や憩いの場とすることを目指して工事をすすめました。これに関わって第10次規模確認調査を実施したところ、後円部北側の地すべりで崩落した盛土中から、整然と並ぶ石組遺構－石室基盤工－が出土しました。崩落土からは石棺片や副葬品類も出土し、主体部の基礎構造に関わる遺構をはじめて確認することができました。

史跡闘鶏山古墳では、墳丘部の断ち割り調査で、前方部の盛土構築の手法が追認されるとともに、新たに後円部の盛土状況が確認されました。今回、明らかになった調査結果を今後の整備に活かしていくものです。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成19年３月30日

高槻市教育委員会　文化財課
課　長　　森　田　克　行

例　　言

1．本書は、高槻市教育委員会が平成18年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額2,500,000円）の概要報告書である。

2．事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成18年7月24日に着手し、平成19年3月30日に終了した。

3．調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、鐘ヶ江一朗、橋本久和、宮崎康雄、高橋公一、西村恵祥がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。整理作業については以下の各氏が参加した。厚く感謝する。

白銀良子、西岡和江、松下智子、梅靖代、池田理美

4．調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

関口優　長谷川喜伯　棚田和夫　大江俊紀　武田勝弘　北村裕也　小野沢透

樋口隆司　木乗ヤエ　吉田満明　岸田博　大江俊紀

目　　次

Ⅰ　嶋上郡衙跡 …… 1
Ⅱ　今城塚古墳 …… 6
Ⅲ　芥川遺跡 …… 7
Ⅳ　高槻城跡 …… 9
Ⅴ　梶原寺跡 …… 12
Ⅵ　悉壇寺跡 …… 13
Ⅶ　中城遺跡 …… 14
Ⅷ　出土遺物保存処理 …… 15
Ⅸ　闘鶏山古墳規模確認調査 …… 16
Ⅹ　今城塚古墳規模確認調査 …… 17

No.	遺跡名（地区）	調査地	面積（m²）	申請者
1	嶋上郡衙跡（39−F）	清福寺町919—17、919—18	78.92	関口　優
2	〃　（3−A）	郡家本町895—1・2	1,144.83	長谷川　喜伯
3	〃　（43−G）	郡家新町30—8	148.15	棚田和夫
4	今城塚古墳（2006−1）	氷室町一丁目563—3・25	116.48	武田勝弘
5	芥川遺跡（2006−1）	殿町63	1,000.00	岸田　博
6	〃　（2006−2）	殿町51—1、54—5	242.00	吉田満明
7	高槻城跡（2006−1）	八幡町1052—6	88.02	樋口隆司
8	〃　（2006−2）	八幡町1052—34	88.37	小野沢　透
9	〃　（2006−3）	八幡町1052—35	107.09	大江俊紀
10	梶原寺跡（2006−1）	梶原一丁目261—1、262—2の各一部	296.61	上里正明
11	悉壇寺跡（2006−1）	成合北の町617—1	162.42	木虎ヤエ
12	中城遺跡（2006−1）	昭和台二丁目152—2	110.00	北村裕也

平成18年度　市内遺跡調査一覧

Ⅰ．嶋上郡衙跡

1．嶋上郡衙跡（39－Ｆ地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町町919－17、919－18番地にあたり、小字名は「川西北浦」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、立会い調査を実施したところ、遺構を検出したため南北3.2m、東西1.4～1.1mの調査区を設定して確認作業をおこなった。

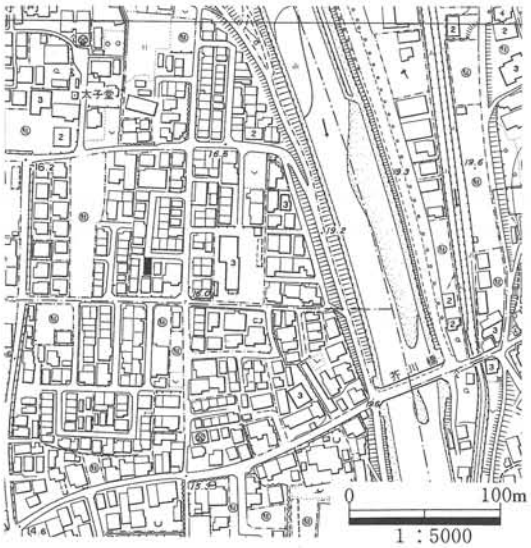
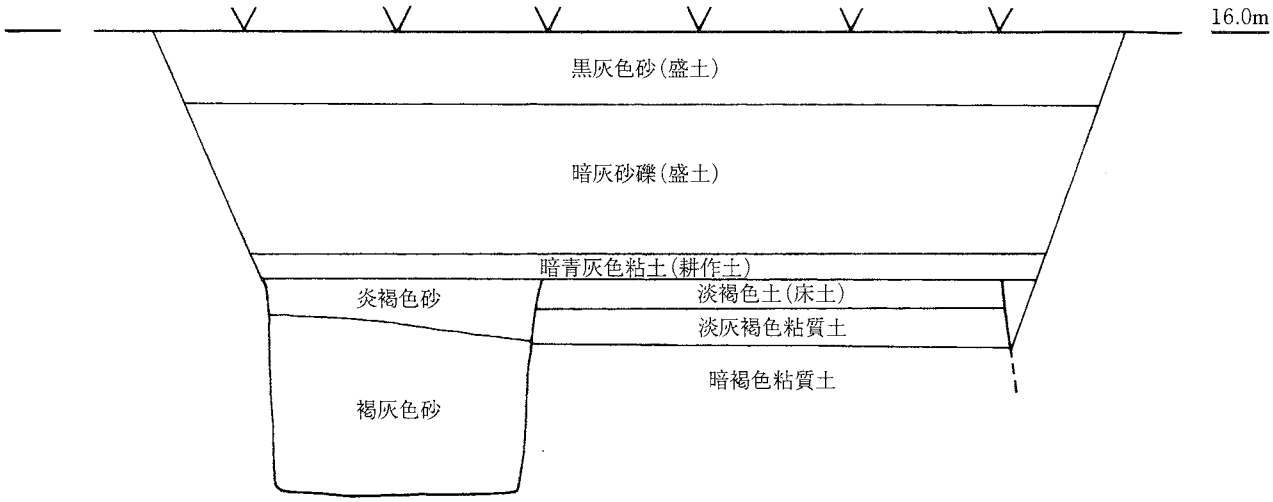


図１　嶋上郡衙跡（39-F）調査位置図

層序は、黒灰色砂･暗灰色砂礫（盛土：0.75m）、暗青灰色粘土（耕作土：0.08m）、淡褐色土（床土：0.1m）、淡灰褐色粘質土（0.15m）、暗褐色粘質土であり、淡灰褐色粘質土からは瓦器小片が、暗褐色粘質土からは土師器小片が出土した。地山は確認していない。

遺構としては、調査区の北半部で箱状の掘り込みを検出した。南北長0.9m、深さ0.7mで、東西は調査区外へ伸びる。埋土は上層が淡褐色砂、下層が褐灰色砂に大別でき、陶器の小片が出土した。また、調査区南端でもこれと同様とみられる掘り込みの北辺を検出している。これらは耕作土直下から掘り込まており、近代以降の遺構であることは確定的だが、その性格は不明である。

（高橋）



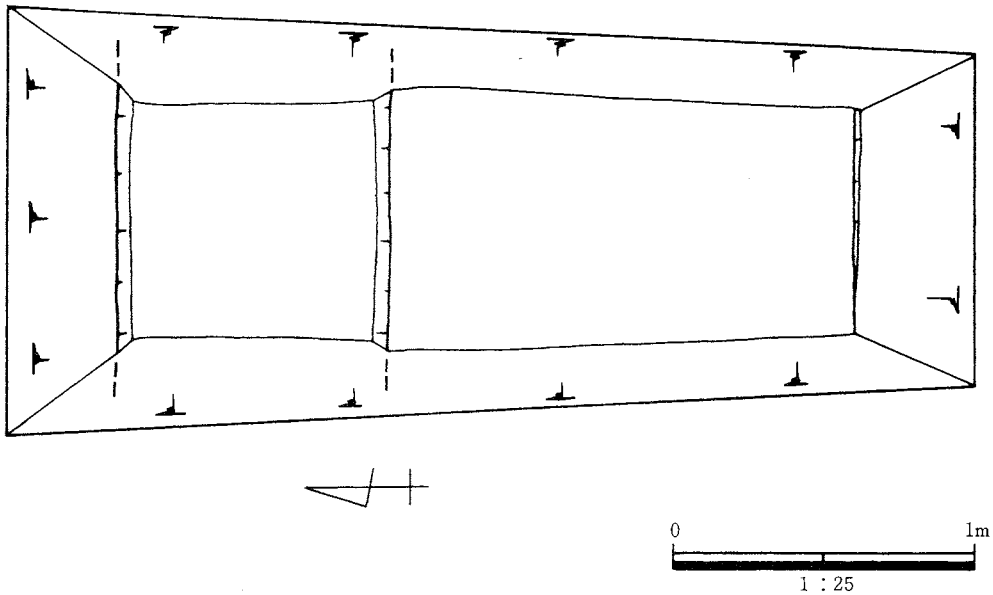


図2　嶋上郡衙跡（39-F）トレンチ平面図・土層図

2．嶋上郡衙跡（３－Ａ地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町895－1、895－2番地にあたり、小字名は「東上野」である。現状は宅地である。

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したもので、盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。

層序は盛土(黄色土･0.4m)、青灰色礫(0.75m)灰色礫(0.4m)、黄灰色砂礫である。青灰色礫以下も当該地域の宅地土とみられる。建物基礎は盛土内に収まり、遺構・遺物は検出されなかった。

図３　嶋上郡衙跡（３-A）調査位置図

（宮崎）

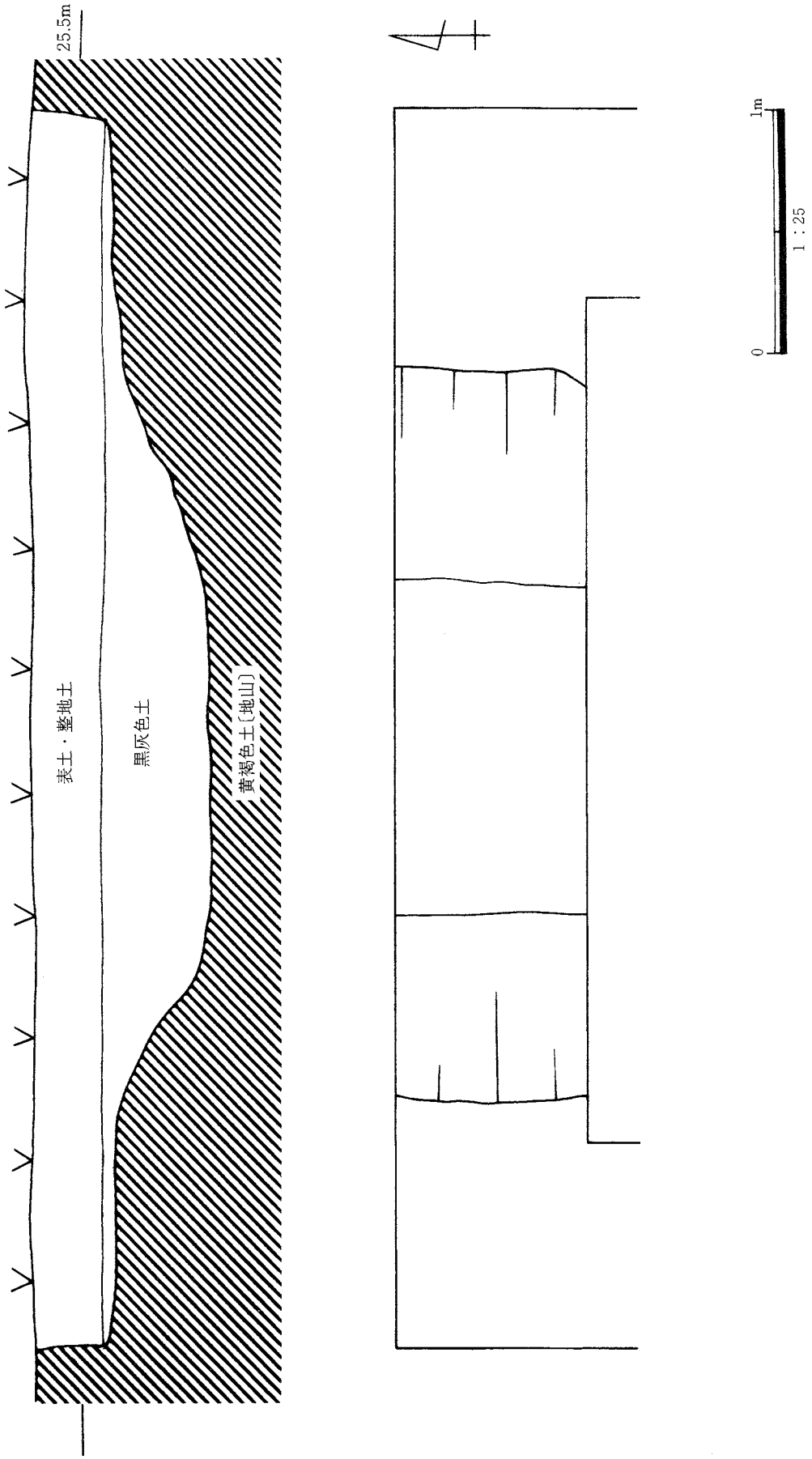


図4　嶋上郡衙跡（3－A）トレンチ平面図・土層図

3．嶋上郡衙跡（43－G地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町30－８番地にあたり、小字名は「仮又」である。現状は宅地である。当該調査は今城塚古墳の東側にあたり、これまでの周辺部の調査では、後期の小型古墳の周溝や須恵器、埴輪などが出土している。

図５　嶋上郡衙跡（43-G）調査位置図

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（黄色土・0.4m）、青灰色砂礫とつづく。青灰色砂礫はこの地域の造成の盛土とみられるが、計画されたていた建物基礎は盛土内に収まるため、遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

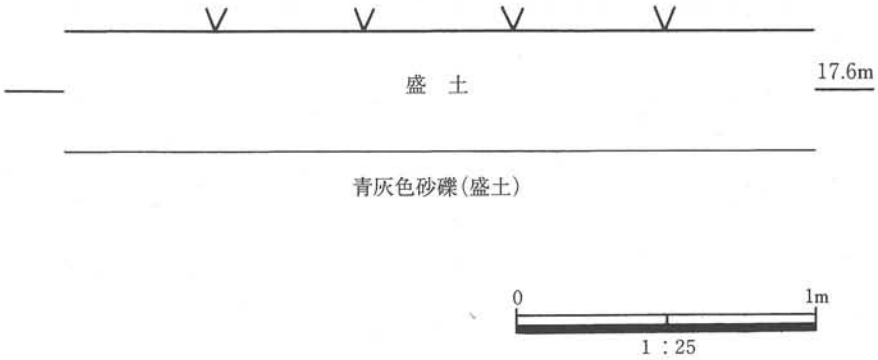


図６　嶋上郡衙跡（43-G）土層模式図

Ⅱ．今城塚古墳

1．今城塚古墳（2006－1）の調査

調査地は高槻市氷室町一丁目563－3、563－25にあたり、小字名は「東野」である。当該地は史跡・今城塚古墳の西側にある住宅地で、個人住宅建設工事に先立って、立会調査を実施した。基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.45m)を除去するとただちに当該地周辺の地山である黄灰色粘土となった。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。　（宮崎）

図７　今城塚古墳（2006-1）調査位置図

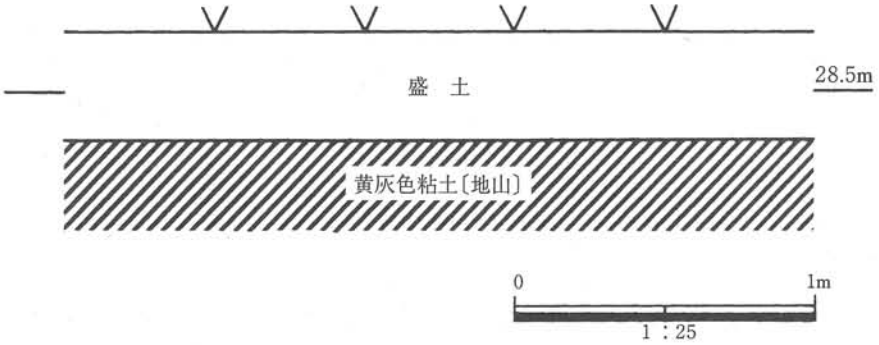


図８　今城塚古墳（2006-1）土層模式図

Ⅲ．　芥川遺跡

1．芥川遺跡（2006－1）の調査

調査地は高槻市殿町63番地にあたり、小字名は「殿ノ内」である。現状は宅地である。当該地は芥川東岸の住宅地で、中世・近世には芥川宿として栄えた地域である。また、東側では縄文時代後期の遺構・遺物をはじめ、弥生時代から古墳時代にかけての集落が検出されている。このたび、個人住宅増築工事に伴い立会調査を実施したものである。

図９　芥川遺跡（2006-1）調査位置図

調査は増築部分の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.3m)を除去するとただちに黄灰色土となり、当該地周辺の地山である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

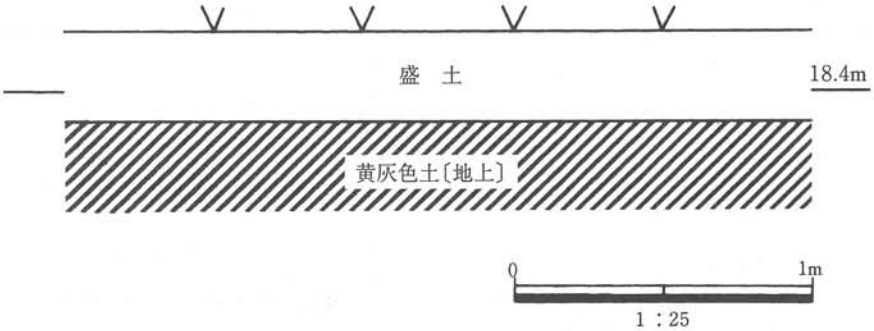


図10　芥川遺跡（2006-1）土層模式図

2．芥川遺跡（2006－2）の調査

調査地は高槻市殿町51－1，54－5番地にあたり、小字名は「殿ノ内」である。芥川のすぐ東側に位置する。当該地も弥生時代や中世・近世の遺構・遺物の検出が予想されるため、個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は耕土(0.15m)、灰色土(0.15m)、黄褐色土(0.2m)、黄灰色砂礫[地山]で、遺構・遺物は検出されなかった。

図11　芥川遺跡（2006-2）調査位置図

（橋本）

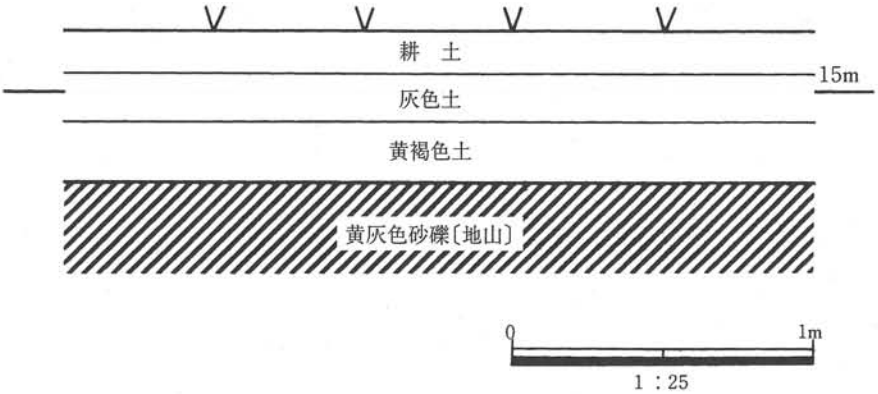


図12　芥川遺跡（2006-2）土層模式図

Ⅳ．　高槻城跡

1．高槻城跡（2006－1）の調査

調査地は高槻市八幡町1052－6番地にあたり、小字名は「裏三ノ丸」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い立会調査を実施したものである。

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.4m)を除去すると、青灰色粘土の厚い堆積となり遺構・遺物は検出できない。青灰色粘土は高槻城三ノ丸の外堀の堆積土とみられる。

（橋本）

図13　高槻城跡（2006-1）調査位置図

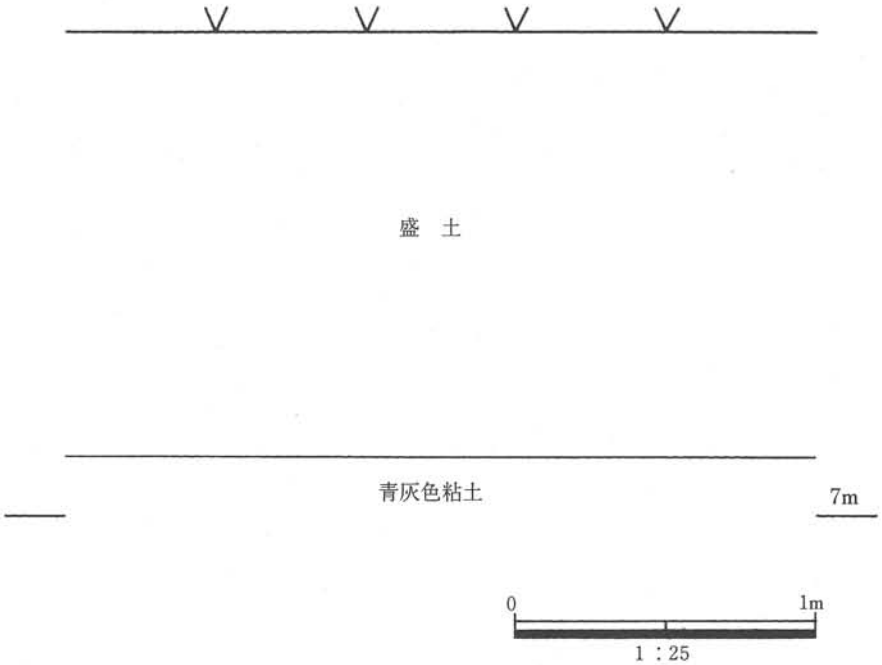


図14　高槻城跡（2006-1）土層模式図

2．高槻城跡（2006－2）の調査

調査地は高槻市八幡町1052－34番地にあたり、小字名は「裏三ノ丸」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い立会調査を実施したものである。

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.4m)を除去すると、青灰色粘土の厚い堆積となり遺構・遺物は検出できない。近年まで水田として利用されてきた、高槻城三ノ丸の外堀の堆積土とみられる。

（橋本）

図15　高槻城跡（2006-2）調査位置図

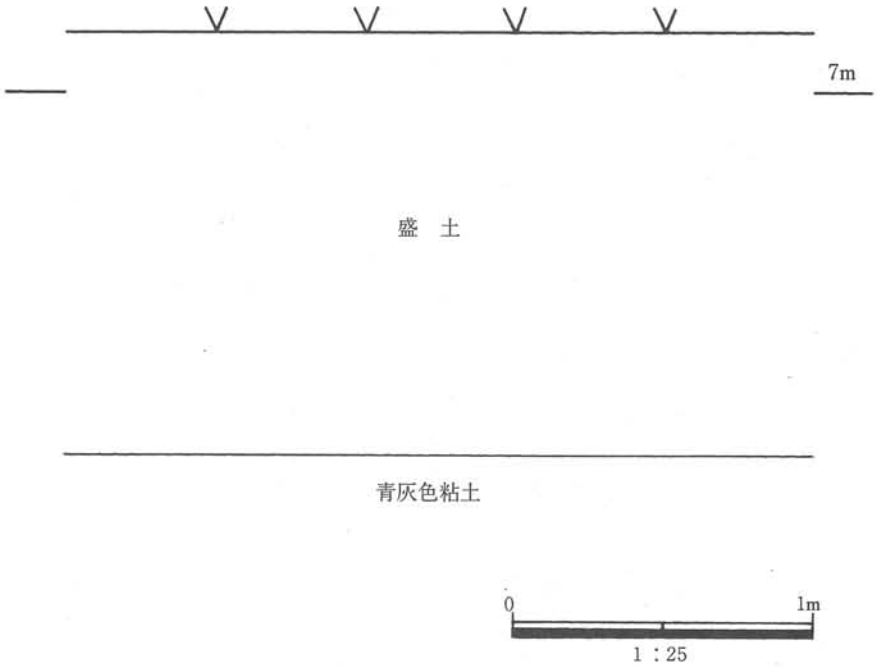


図16　高槻城跡（2006-2）土層模式図

3．高槻城跡（2006－3）の調査

調査地は高槻市八幡町1052－35番地にあたり、小字名は「裏三ノ丸」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い立会調査を実施したものである。

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.2m)を除去すると、青灰色粘土の厚い堆積となり遺構・遺物は検出できない。この調査地でも高槻城三ノ丸の外堀の堆積土を確認した。

（橋本）

図17　高槻城跡（2006-3）調査位置図

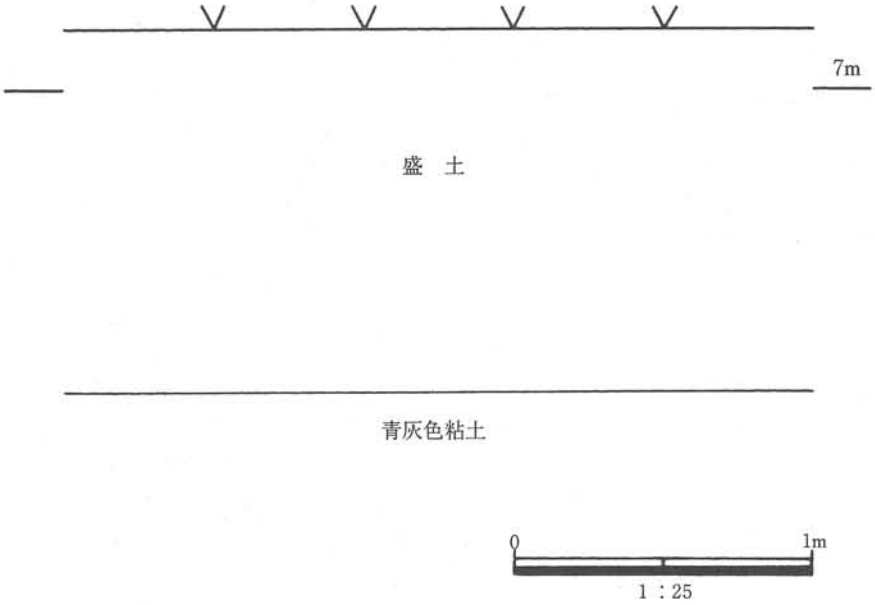


図18　高槻城跡（2006-3）土層模式図

Ⅴ．梶原寺跡

1．梶原寺跡（2006－1）の調査

調査地は高槻市梶原一丁目261－1、261－2番地の各一部にあたり、小字名は「山本前」である。現状は宅地である。当該地は奈良時代の梶原寺跡の西側に隣接し、『正倉院文書』によると、造東大寺司が太政官府によって摂津職に命じ、梶原寺に東大寺大仏殿歩廊用瓦の制作を命じている。当該地北側には梶原瓦窯跡があり、名神高速道路拡幅工事に伴い、8世紀を中心にした5基の窯跡が調査されている。今回は個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。

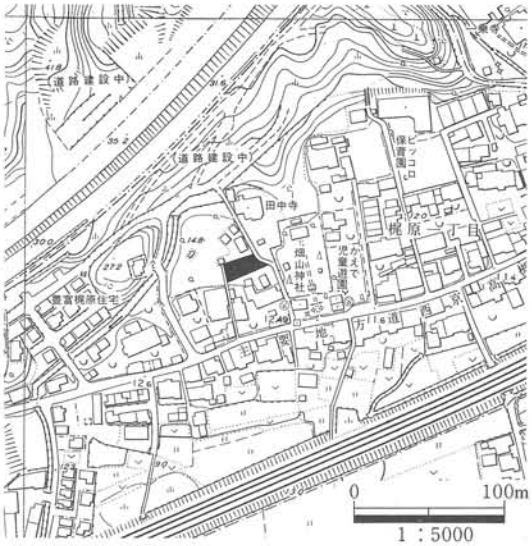


図19　梶原寺跡（2006-1）調査位置図

調査は建物の浄化漕掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.3m)を除去すると、黄灰色土(盛土:0.3m)、褐色土(0.4m)、灰色粘土(0.5m)、と堆積し、地山は青灰色砂礫である。遺構・遺物は検出されず、梶原寺跡の西側への拡がりについて確認することができた。　（橋本）

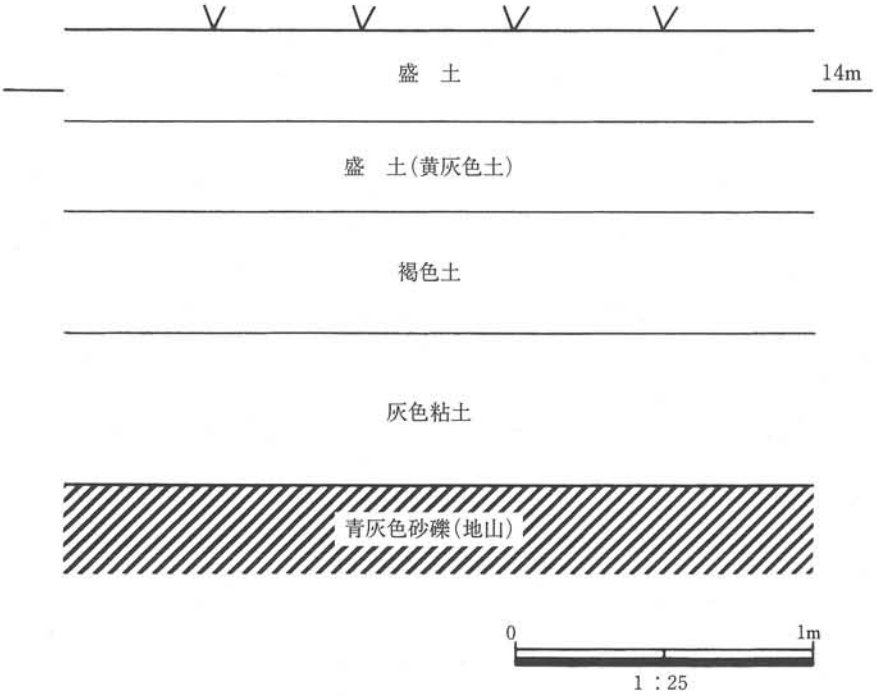


図20　梶原寺跡（2006-1）土層模式図

Ⅵ. 悉壇寺跡

1．悉壇寺跡（2006－1）の調査

調査地は高槻市成合北の町617－1番地にあたり、小字名は「西王寺山」である。現状は宅地である。悉壇寺跡は平安時代の寺跡であるが、これまでの周辺部の調査では鎌倉時代の土器などが出土している。今回は個人住宅建設工事に伴い立会調査を実施した。

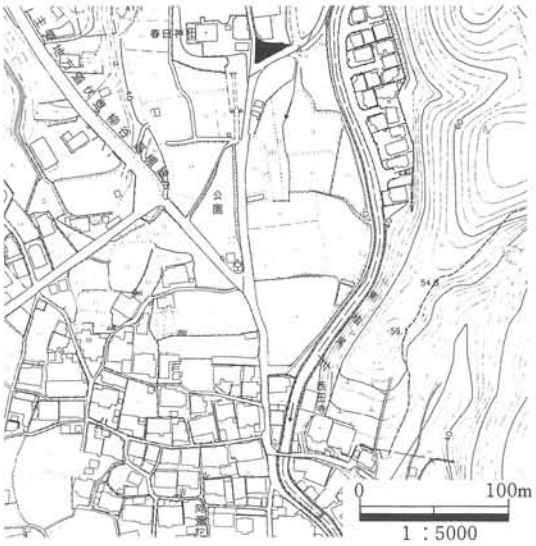


図21　悉壇寺跡（2006-1）調査位置図

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.5m)を除去すると、旧耕作土(0.1m)、灰色土(0.2m)と堆積し、地山は砂礫の混じる黄褐色土である。遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

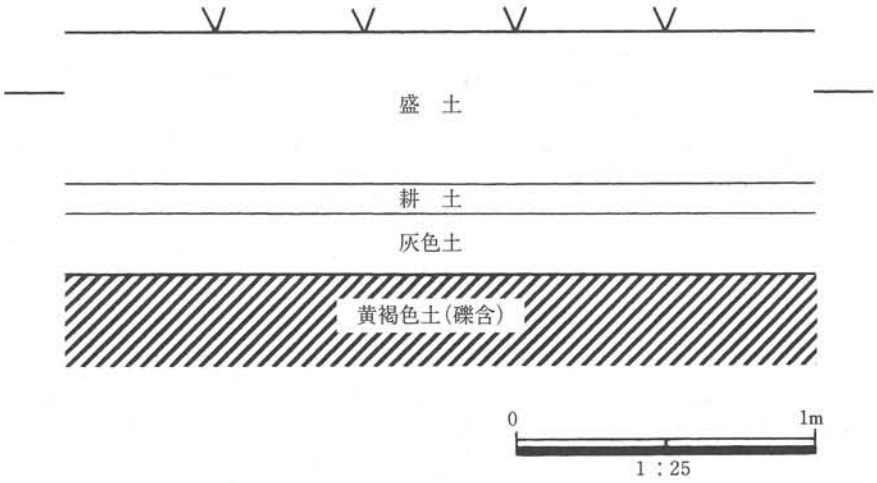


図22　悉壇寺跡（2006-1）土層模式図

Ⅶ. 中城遺跡

1．中城遺跡（2006－1）の調査

調査地は高槻市昭和台二丁目152－2番地にあたり、小字名は「慶瑞寺」である。現状は宅地である。当該地は富田台地南側に位置し、周辺部では弥生時代後期の土器等が出土している。個人住宅建設工事に伴い立会調査を実施した。

調査は建物の基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.25m)を除去すると、すぐに地山の赤褐色土となり、遺構・遺物は検出されなかった。

図23　中城遺跡（2006-1）調査位置図

（橋本）

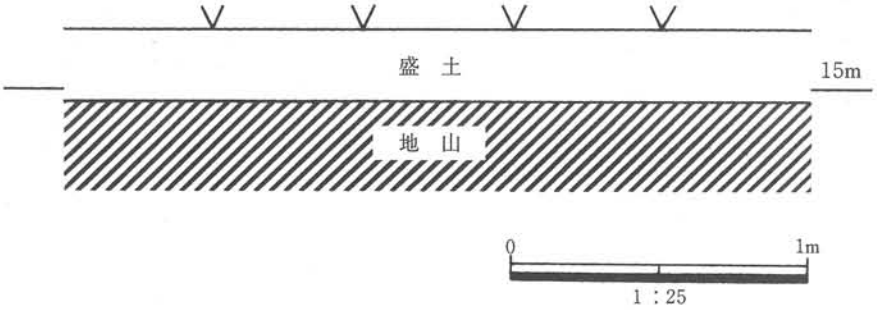


図24　中城遺跡（2006-1）土層模式図

Ⅷ. 出土遺物保存処理

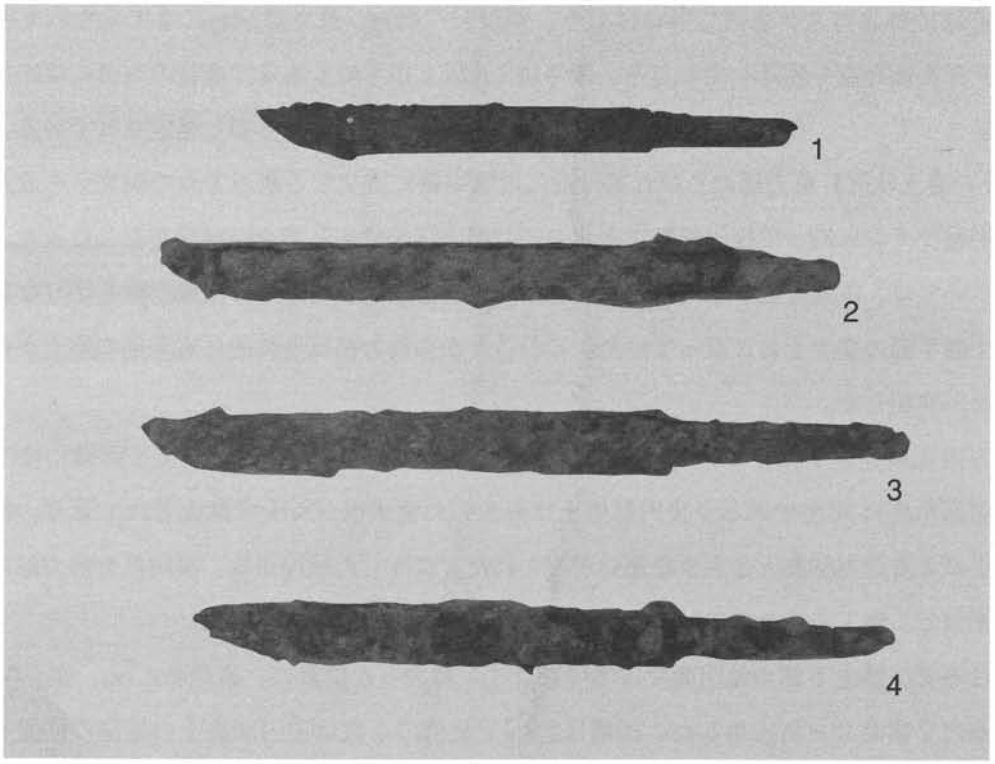
平成18年度は上土室遺跡から出土した鉄製品の保存処理を委託事業として実施した。

今回処理を施した遺物は、上土室遺跡の土坑墓内から出土したものである（表1）。

これらの遺物はいずれも腐食が進行しており、迅速な対応が求められることから、樹脂含浸による保存処理をおこなった。

番　号	種　類	法　量　(cm)				備　　考
		全長	刃部長	全幅	厚	
1	鉄刀	27.8	20.5	2.7	0.5	茎端欠、木質残存
2	鉄刀	34.0	25.0	2.8	0.8	両端欠、木質残存
3	鉄刀	39.0	26.5	3.0	0.8	先端欠
4	鉄刀	36.3	25.0	3.0	0.8	茎端欠

表1　上土室遺跡出土鉄製品一覧



上土室遺跡出土鉄製品

Ⅸ. 闘鶏山古墳規模確認調査(第5次)

闘鶏山古墳は、平成14年の調査によって未盗掘の主体部(竪穴式石槨)2基をそなえた4世紀前半の前方後円墳であることが明らかとなり、同年に国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。高槻市では保存整備に向けて継続的に確認調査を実施している。

今回の第5次調査では後円部東側丘陵部斜面における遺構の確認と、墳丘の盛土状況の把握を目的に、合計5ヵ所の調査区を設定して実施した(総面積は約400m²)。

【後円部東側丘陵部斜面】調査区を3ヵ所設定し、遺構の確認と土層の観察に努めた。転落してきた葺石が散見されるものの、古墳に伴うとみられる遺構は存在せず、東に向かって下降していく地山面を確認したのみである。

また、東側くびれ部の東方斜面に位置する舌状の高まりの実態を把握するため、ほぼ全面にわたり調査をおこなった。調査の結果、全体が黄灰色砂質土の地山で、盛土は存在しなかった。規模は裾部で南北14m、東西10m、中央部は南北約6m、東西約5mの範囲で、標高73.8～74.1mの平坦面をなす。平坦部や斜面部で直径10cm以下の礫群が部分的にみられたほか、律令期に属するとみられる土師器及び須恵器の小片が出土したが、この高まりが闘鶏山古墳に関連する遺構であるとの確証を得ることはできなかった。一方、上面に地割れの痕跡がみつかった。痕跡は南北および東西方向にはしり、幅は5～10cm、長さは14mに達するものもみられる。一部を断ち割り確認したところ、深さは1m以上のものもある。亀裂の内部には赤褐色粘土が詰まっていた。これらは、大阪層群形成時の地殻変動に伴うものと推定されている。

【墳丘の盛土状況】前方部のくびれ部付近に古墳中軸に直交する東西方向の調査区を設定、さらに中軸ラインに沿って後円部側に南北方向の調査区を設定して土層観察をおこなった。前方部については、南端付近や中央付近と同様に、東半部が先行し、その西側斜面を切りなおしたうえで西半部の盛土をおこなっていた。このことから前方部は全体的に東半部の盛土が先行したことが判明した。

一方南北調査区中軸ラインでは、前方部東半盛土の下部で、後円部盛土を明確に検出できた。斜面角度は30度である。後円部盛土はおおむね黄灰色シルトで構成されており、橙褐色砂質土による前方部盛土と大きな違いがみられた。こうした状況から、後円部を前方部に先行して築造し、施工にあたっては土を精選して使用したことが想定される。

ところで、盛土下部の地山面で古墳中軸ラインに沿った位置に、直径約0.1m、深さ0.1m以上の小穴を南北2ヶ所検出した。間隔は2.7mで北側の小穴は後円部盛土の裾部の位置とほぼ一致する。埋土は上層の各盛土と同質の土で、遺物は無い。この小穴は位置関係と形状から、古墳築造時の割り付け基準杭の痕跡とも推測されるが、今後の詳細な検討を要する。 (高橋)

X. 今城塚古墳規模確認調査(第10次)

今年度の調査は、後円部北側を中心に墳丘の遺存状況や盛土の状態を把握するために実施した。

調査トレンチは後円部南半部(第8次調査区)、北裾(第2次調査区)を南北につなぐ形で設定したもので、墳丘中央を東西に画す崩落崖裾の北側で花崗岩や川原石を用いた平面形が「コ」字状の石組みによる「石室基盤工」を検出した。遺構全体が地震による地すべりの状況を示しているため、北辺の東西隅付近は石材の崩れこみがみられる。外縁部は方形の花崗岩の直辺部をそろえて一直線に並べ、目地を通すよう3段に積み上げていた。高さは約80cm、東西長約11.7m、南北現存長12.2mを測る。この内側には一辺約20~40cmの川原石や板石が面をそろえるように並べられていた。石材の大部分は花崗岩類とホルンフェルスであり、北方約5.5kmの芥川中流やその周辺で採取したと推定される。この他、少量であるが、緑色片岩や結晶片岩も出土している。石組外側の土層を観察すると、墳丘盛土が石組み外面部に及んでいたことから、石組が露出せず、盛土内に構築されていたことが判明した。

石組内からは、凝灰岩(二上山白石・阿蘇ピンク石・竜山石)や金銅製品(刀装具・馬具)、鉄製品(鏃・甲冑)の小片、ガラス小玉などの副葬品類が出土した。凝灰岩のうち、二上山白石と阿蘇ピンク石には明確な加工痕や朱が認められる。とくに白石は厚さが約15cmであり、組み合わせ式の家形石棺である可能性が高まった。

石組の北側では東西6.6m、南北1.5mの範囲にこぶし大の円礫(淡路島産出)が集中していた。ここからは三種の凝灰岩や形象埴輪(器台)鉄釘などが小片となって出土している。

まとめ

石室基盤工は検出状況や崩落崖との位置関係から判断して、現況後円部上面の北側付近にあったものが崩落したと判断できる。第8次調査では後円部上面から南へ滑落した礫群を検出しており、その状況からは墳丘上に築かれた石組が南北に分かれて滑落したと考えられる。この石組の機能としては京都府・五ヶ庄二子塚古墳や奈良県・市尾墓山古墳での検出例にみるように、横穴式石室の基礎構造と解することが妥当である。

以上のことから、後円部には横穴式石室が現況後円部上面の石室基盤工上に構築されていたことが確実といえ、古墳の東西軸に平行、もしくは直行する位置に開口していたと推定される。また、すべて盛土による現況二段築成の墳丘は、本来三段築成であって、最上段となる三段目盛土内に石室が築かれたため、不等沈下を防ぐために石室基盤工を構築したのであろう。ただ、複数の調査地点から石棺片や副葬品類が出土するため、文献にもあるように13世紀には盗掘を受け、1596年の伏見地震以前に石室はすでに解体されていたのであろう。　(宮崎)

抄　　録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	31
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	34
編集者名	鐘ヶ江一朗　橋本久和　宮崎康雄　高橋公一　清水良真　西村恵祥　佐伯めぐみ
編集機関	高槻市教育員会文化財課埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21−1
発行年月日	2007年3月

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガ 嶋上郡衙跡　39−F地区				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ セイフクジチョウ 大阪府高槻市清福寺町919−17、919−18				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 14″	135° 35′ 46″	20060911	立会	個人住宅 建設工事
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
嶋上郡衙跡	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　3−A地区				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲホンマチ 大阪府高槻市郡家本町895−1・2				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 20″	135° 35′ 54″	20060928	立会	個人住宅 建設工事
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
嶋上郡衙跡	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　43−G地区				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町30−8				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 30″	135° 35′ 41″	20061128 〜 20061129	立会	個人住宅 建設工事
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
嶋上郡衙跡	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		イマシロヅカコフン 今城塚古墳（2006−1）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ ヒムロチョウ 大阪府高槻市氷室町一丁目563−3·25				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 43″	135° 36′ 42″	20060908	立会	個人住宅 建設工事
27207	40					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
今城塚古墳	古墳	古墳				

フリガナ 所収遺跡名	アクタガワイセキ 芥川遺跡（2006−1）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ トノマチ 大阪府高槻市殿町63					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 43″	135° 36′ 42″	20071023 ～ 20071024	立　会	個人住宅 建設工事
27207	74					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
芥川遺跡	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名	アクタガワイセキ 芥川遺跡（2006−2）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ トノマチ 大阪府高槻市殿町51−1、54−5					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20070130 ～ 20070201	16 m²	個人住宅 建設工事
27207	74					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
芥川遺跡	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名	タカツキジョウアト 高槻城跡（2006−1）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ヤハタチョウ 大阪府高槻市八幡町1052−6					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20060808	立　会	個人住宅 建設工事
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城跡	城　館	近　世				

フリガナ 所収遺跡名	タカツキジョウアト 高槻城跡（2006−2）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ヤハタチョウ 大阪府高槻市八幡町1052−34					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20060925	立　会	個人住宅 建設工事
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城跡	城　館	近　世				

フリガナ 所収遺跡名	タカツキジョウアト 高槻城跡（2006−3）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ヤハタチョウ 大阪府高槻市八幡町1052−35					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20060926 ～ 20060927	立　会	個人住宅 建設工事
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城跡	城　館	近　世				

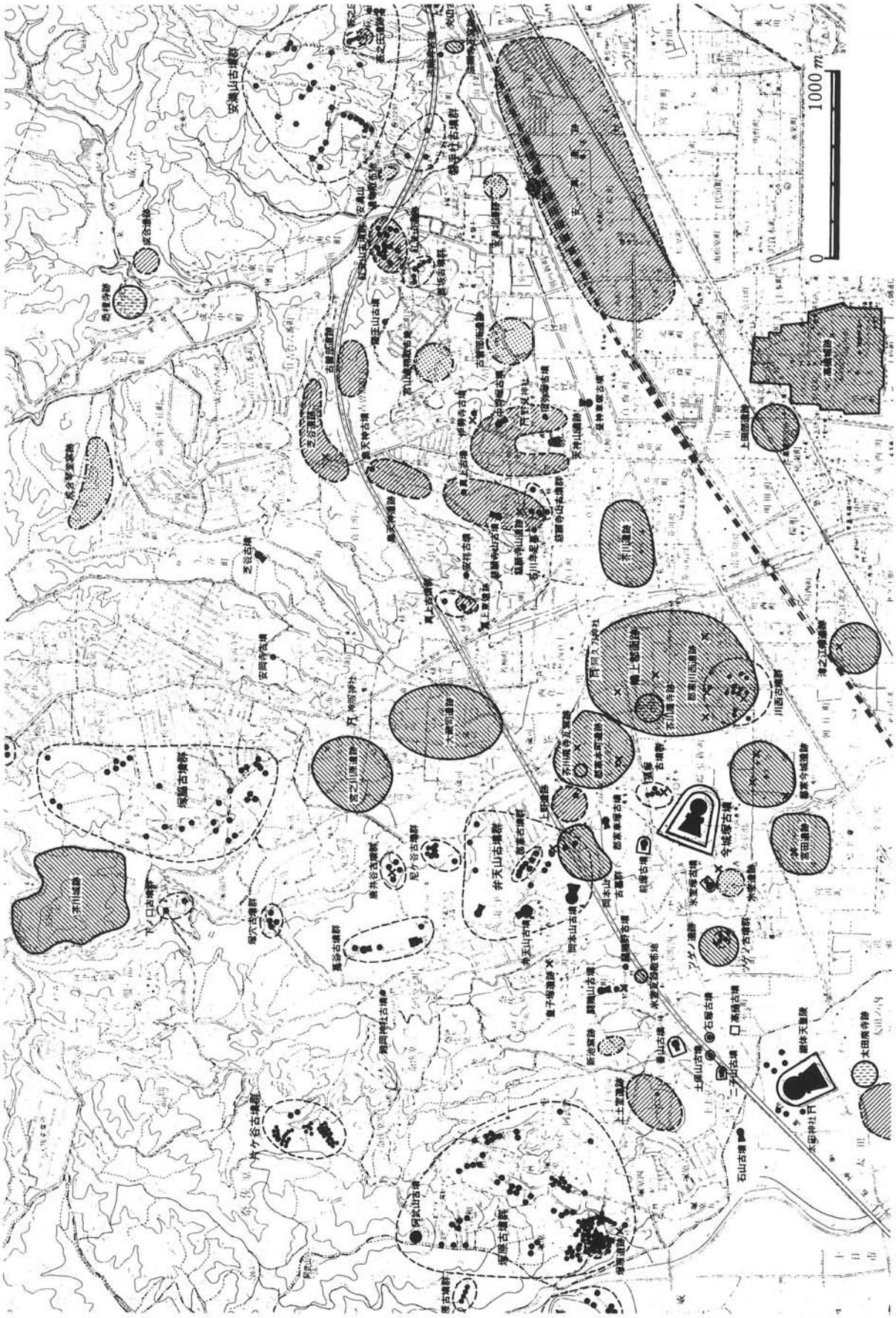
フリガナ 所収遺跡名		カシワラテラアト 梶原寺跡（2006−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ アマナカノマチ 大阪府高槻市梶原一丁目261−1,262−2の各一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20070119 ～ 20070122	4 m²	個人住宅 建設工事
27207	104					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
梶原寺跡	寺　院	奈　良				

フリガナ 所収遺跡名		シツタンジアト 悉壇寺跡（2006−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ナリアイキタノマチ 大阪府高槻市成合北の町617−1				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20061120 ～ 20061121	立　会	個人住宅 建設工事
27207	90					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
悉壇寺跡	寺　院	平　安				

フリガナ 所収遺跡名		チュウジョウイセキ 中城遺跡（2006−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ショウワダイニチョウメ 大阪府高槻市昭和台二丁目152−2				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 45″	135° 37′ 49″	20060724	立　会	個人住宅 建設工事
27207	47					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
中城遺跡	集　落	弥　生				

図　　版

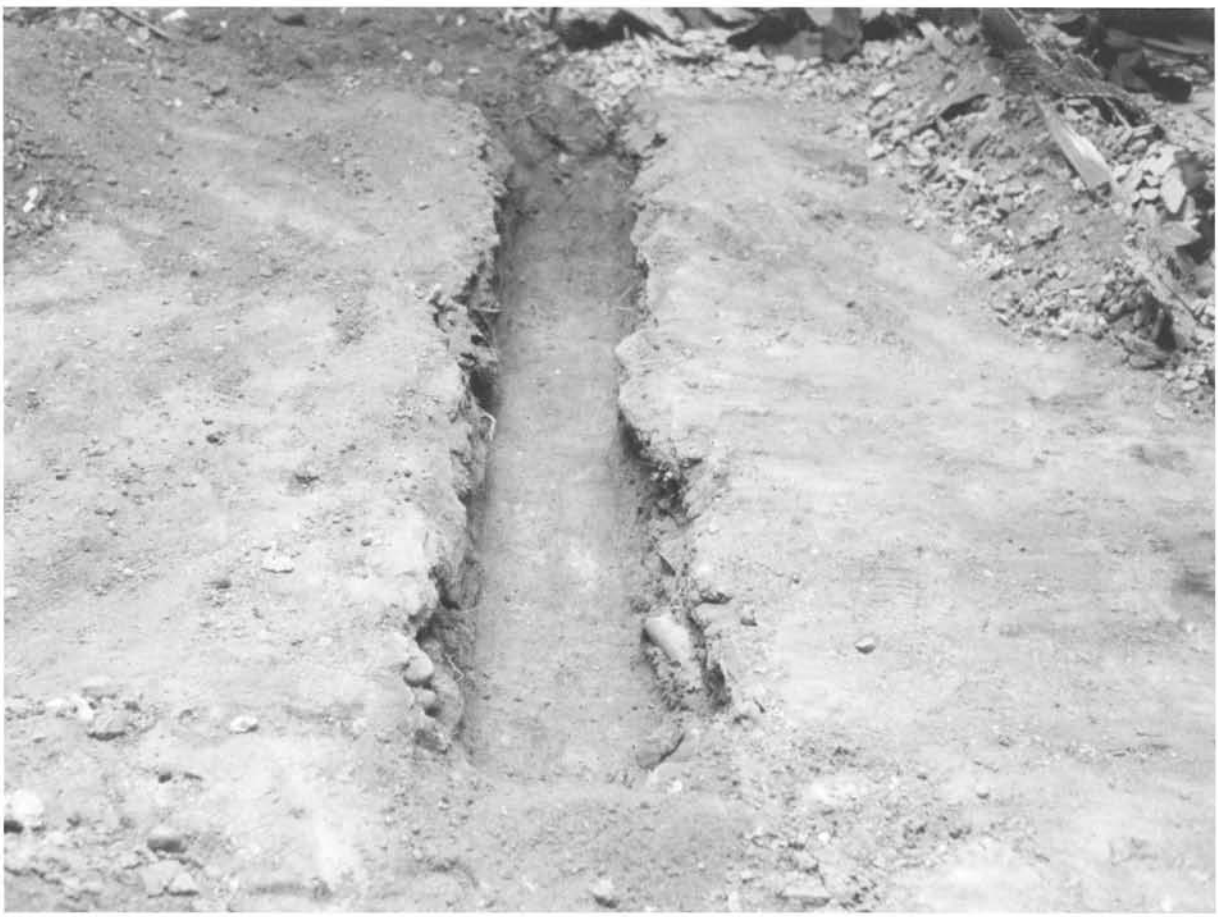
図版第1



嶋上郡衙跡とその周辺

a. 嶋上郡衙跡（39−F）調査区全景

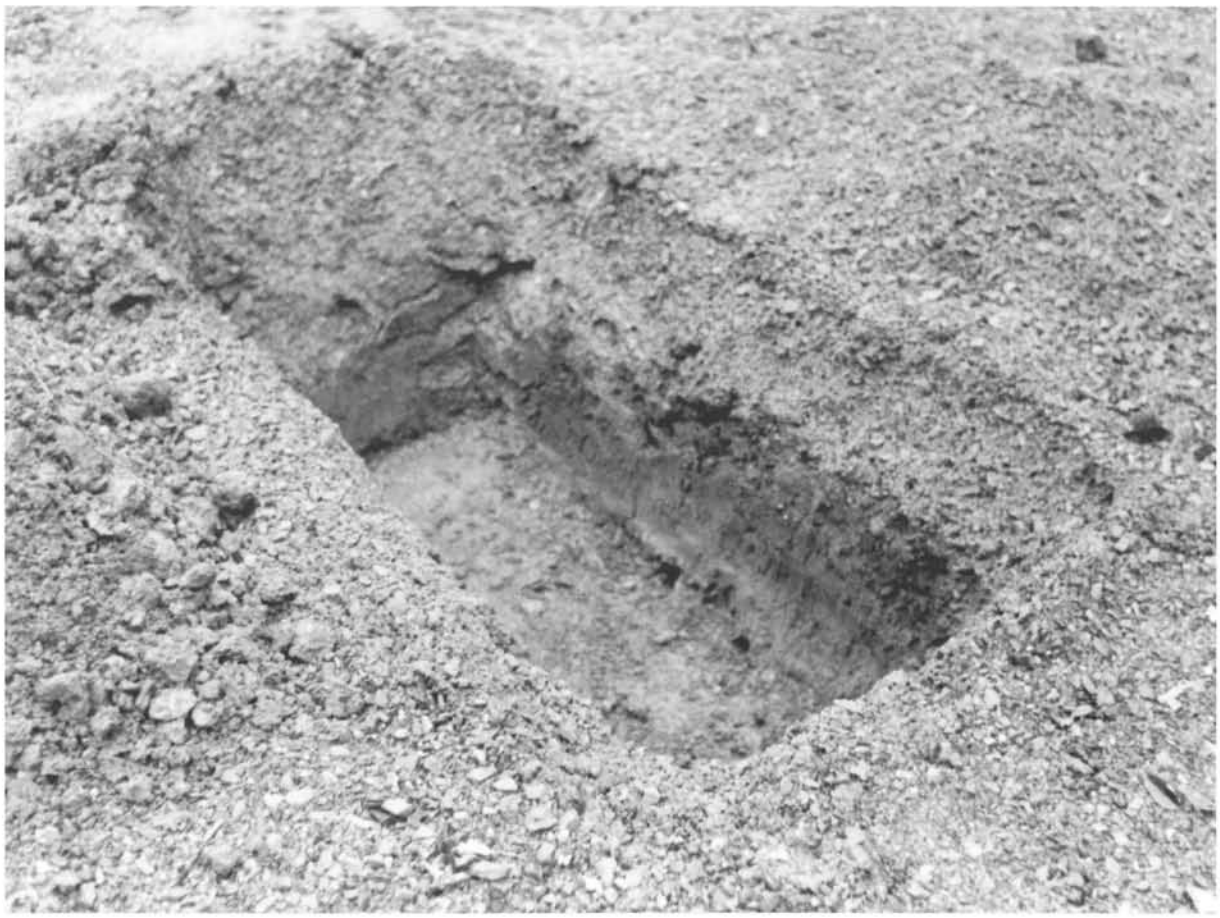
b. 嶋上郡衙跡（3−A）調査区全景



a. 芥川遺跡（2006−1）調査区全景

b. 高槻城跡（2006−1）調査区全景

a. 梶原寺跡（2006−1）調査区全景



b. 悉壇寺跡（2006−1）調査区全景

a. 闘鶏山古墳

b. 今城塚古墳

高槻市文化財調査概要 34

嶋上遺跡群 31

平成 19 年 3 月 30 日

発　行　高槻市教育委員会
文化財課　埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目21番1号

印　刷　株式会社　邦文社
大阪市東淀川区大桐1丁目4番9号